

『教育学研究集録』の終刊にあたって

教育学研究科長 大戸安弘

この第28集をもって『教育学研究集録』は終刊となります。1976年に筑波大学大学院教育学研究科が開設されましたが、その年に第1集が創刊されました。1961年に創刊された東京教育大学大学院『教育学研究集録』を引き継いでの刊行でした。本集には創刊号からの執筆者とその論文題目を一覧にしましたが、これまでに数多くの大学院生による清新な論考が寄せられてきました。いずれも習作期の論文というべきでしょうが、それらのなかには学会の注目を集めたものも少なからず含まれていますし、それを核にしてその後より大きく豊かに展開し、やがては博士論文へと研究成果を結実させるという研究者の王道を歩んでいった例もみられます。後に大成された方々の名前も散見されることに、それは明らかでしょう。

『教育学研究集録』は、若手研究者の研究成果発表の場として、この国の教育学研究の一翼を担う場としての存在理由を示し続けてきました。しかし、2001年より筑波大学の組織が大学院博士課程を中心とした体制に改組されるという、本学の歴史における大きな節目に入ったことにより、大学院の研究・教育のあり方にも再検討が迫られることになりました。その結果、教育学研究科は2005年3月末を以って終止符を打つことになり、その歴史は人間総合科学研究科の教育学専攻・学校教育学専攻・ヒューマン・ケア科学専攻共生教育学分野によって継承されることになりました。それにともない、教育学研究科大学院生が主体となってきた『教育学研究集録』は終刊を迎えることになったのです。今後は教員とともに研究成果発表の場を共有し、大学院生と教員とが相互に切磋琢磨していくことになりました。当面は、本年度に教育学専攻より創刊される『教育学論集』と在来の『教育学系論集』とが、その役割を担っていくこととなりますが、人間総合科学研究科での研究活動が以前にも増して活発に展開されるなかで、さらに新たな場も誕生することになるでしょう。

粗削りながらも独自の教育学研究の方向性を探究しようとしていた若々しい研究への意欲が、『教育学研究集録』誌上の随所に、たしかに刻印されていたことを想起し、その学問的遺産に学びながら、人間総合科学研究科における研究活動を通して実り豊かな成果が生まれることを大いに期待したいと思います。